

今年度の入学者選考結果は下記の通りとなりました。

概況

募集定員	20
志願者数	30
合格者数	26
志願倍率	1.5
合格者平均点 (5 教科 250 点満点)	154.4
受検者平均点 (5 教科 250 点満点)	150.3

※志願者に青翔開智中学校からの内部進学者は含みません。

※合格者平均点・受検者平均点は「学力検査」の結果に基づくものです。

実際の合否は、学力検査・面接検査（個人面接・書類審査 [資格・検定取得者優遇]）を合わせた総合判定です。

学力検査 詳細

科目/配点	国語/50	数学/50	社会/50	英語/50	理科/50	合計/150
受検者最高点	42	31	45	47	39	191
受検者最低点	15	8	19	21	21	105
受検者平均点	27.1	21.6	35.2	35.7	30.7	150.3

※上記は平成 31 年 1 月 18 日（金）実施の「学力検査」結果に基づく数値です。

出題方針

昨年度より各教科でオリジナル問題を出題しています。これまでと同様に、論理的思考力を問うことはもちろん、新たに創造的思考力を試す内容を加えています。また、近年の大学入試改革を踏まえ、問題文の長文化も新たな傾向です。決められた時間内に問題文を読み解いて答えを導いたり、知識を組み合わせる新しい答えを創造したり、という一連の流れを意識して学習に取り組みましょう。

国 語

鳥取県の県立高校入試と同じ構成で作問しています。ただし、新テストを意識し、記述に重点を置いた問題を多めにしています。問いが要求しているとおりの内容で、過不足なく解答することが重要です。作文問題においては、そうした能力とともに、自分の意見を適切に表現する力を試しています。探究論文の作成にも、資料を正しく読み取った上で自分の主張をまとめる力は不可欠です。第三者の添削を必ず受け、記述力をつけてほしいと考えています。

数 学

構成は例年通りの6題で、基礎事項も多く、難度は例年通りの出題でした。基本的な計算問題に加え、読解力や図形をとらえる力を問う出題をしています。単元の枠にとらわれず、様々な要素が含まれる問題にチャレンジしてもらいたいと考えています。また、問題6は創造的な思考力を意識した出題です。数学では特に問題文で問われている条件を満たし、人に伝える文章が書けているかどうかを採点基準としています。

社 会

昨年同様、地理・歴史・公民全分野からの出題となります。説明問題が全体で5問出題され、一問一答で終わらない、理由・原因を追う学びが必要となります。【問題4】では「第二次世界大戦の賠償金」をテーマとし、初見の資料から、論理的に推測・説明する力を問いました。全体を通して「大きな視点・流れ」を意識して学習することが大切です。

英 語

英語の入試問題は、県立高校入試に準じた構成で作問しています。基礎的な文法知識・語彙力・読解能力を身につけていることが大切です。最後の英作文の問題では、正確な文法とスペルを使用し、提示した文字数で答え、さらに与えられた問いかけにきちんと解答しているかどうかを見ています。どうしても英語以外の単語を使う必要がある場合は、その言語を理解できない人にもわかるように説明を加えてください。(例：Kyudo, a traditional type of archery in Japan, is popular among young people.)

理 科

全8題を出題し、各分野から幅広く出題しました。【問題1】から【問題7】は中学校理科で学習する内容について、基本的な知識を問う問題に加えて、与えられた情報から必要な情報を抜き出し答えを導く問題を多く出題しました。単純な知識の蓄積だけではなく、原理原則をおさえた上でそれらを活用できるかを問いました。また、【問題8】では、与えられた情報から、多様な答えが存在する中から、最良の答えを自ら提案する問題を出題しています。